

(4) 世界文化遺産の登録基準への該当性

① 世界文化遺産の登録基準の番号

段落 7 7 - iii

② 真実性の証明及び完全性の証明

多くの縄文遺跡が痕跡を留めるだけである場合が多いのに対して、ストーンサークルは縄文人が実際に見た姿とほぼ同じ姿を、我々も目にできる唯一の記念物である。

作られてからおよそ 4,000 の間、これらは規模も形も変える事無く現在まで存在し、将来的にも不変のまま遺されていくものである。この点からも真実性も完全性をも十分に充足しているといえるのである。

③ 類似遺産との比較

北日本には北海道森町の鷺ノ木 5 遺跡、青森市の小牧野遺跡などのストーンサークルのある遺跡が多い。これらの遺跡と大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡とのストーンサークルとの大きな相違点は、遺跡内に複数のストーンサークルが存在するのは、これまでのところ、大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡の 2 遺跡だけである。また、世界的にも有名なストーンヘンジは、新石器時代から青銅器時代までの間に作られた巨大な石の記念物であり、様々な天文学的情報を盛り込んだ記念物でもある。大湯環状列石の 2 つのストーンサークルの時計状遺構の立石を結ぶライン上には、夏至の日に太陽が沈む事が確認されている。

日本の基層文化といわれる縄文文化の中で、石のモニュメントとして現存するストーンサークルは縄文人の精神構造と、営みに結びついた重要なモニュメントといえるのである。

1 万年以上という長きにわたる縄文時代、北日本には三内丸山遺跡をはじめとして、縄文文化そのものを物語る大規模な遺跡が存在し、北日本の縄文文化も連綿と続く。

今から、およそ 4,000 年前に出現するストーンサークルは、北日本の縄文文化を代表する記念物で、それは、縄文人の精神文化の結実した姿である。一ヶ所に複数存在する大湯の環状列石や伊勢堂岱遺跡のストーンサークルは、これら北日本のストーンサークルの中心的なモニュメントなのである。